

福島町

7324 白鳥 佑一

1. 概要と歴史

1.1 地名の由来

北海道内の地名のほとんどはアイヌ語に発した地名である。福島についてはアイヌ語でオリカナイ(折加内)と言われてきたが、これはアイヌ語のホロカナイ＝潮が入ってきて河水が逆流する川という意味である。(永田方正筆『北海道蝦夷語地名解』)つまり、現在の福島川の河口付近が大谷地になっていて、河水が滞流し、そこに海水が入り込んでいたことを地名としたものである。寛永元年(1624 年)月崎神社の御神託により、藩に願い出て福島村と改村したといわれている。この福島の地名については、現在の松前町の城跡地域を古くは福山と呼んでおり、それに対する福島なのか、本州対岸の青森県内の福島の地名を吉祥字として吸収して地名としたのかは定かではない。

また吉岡の地名も古くはオムナイと呼び、長禄元年のコシャマイン蜂起の際にも穩内(おんない)館の名が見えている。これもアイヌ語のオムナイ＝川尻の塞(ふさが)る川という意味である。恐らく吉岡川の川尻の土砂が堆積して流れが悪かったことが想像され、近世にいたって吉岡村と改めたものである。

福島町内の字名は昭和 17 年、吉岡村は昭和 13 年字地番の改正により、難解文字の地名、三字以上の長い地名等を現在の地名に改正したが、それ以前の地名は多くアイヌ語に発した地名である。岬や海岸、あるいは河川など他の場所と異なっている地理条件を地名としている所が多く、そのほか、その地の産物、動植物をもって地名としている所もある。

1.2 歴史

縄文前期・中期の時代の 6000 年位前から 4000 年前までを縄文前期の時代といい、それから 1000 年位 下った時代までを、縄文中期の時代と呼んでいる。この時代は円筒形土器時代といわれるように、非常に大きな円筒形の土器を造り、それに穀物等の貯蔵をしたり、煮炊きをする道具に使用したりした。このような大型の土器を造るため、粘土の中に植物の繊維(せんい)を混ぜて甕自体が丈夫になるよう工夫するようになった。この前期の場合縄紋や縄状貼付紋が主体であるが、中期に入ると型はさらに大掛かりになり、胴部に縄を回転させた模様を付し、口唇部(こうしんぶ)には大胆で華麗な紋様となる。この型式で前期のものを円筒下層式あるいは余市式といい、中期のものを円筒上層式と呼んでいる。

青函海底トンネル基地とするため、緊急発掘調査を行った本町の字館崎台地一面は、丁度この円筒前期から中期の遺跡で、200 個体の完形土器の復元ができたほか、無数の土器破片も発見されている。またこの時代には石器の製作使用も盛んで、石鏃(せきぞく)(矢の根石)、石槍、石匙(せきひ)(石小刀)、石斧(ふ)(石おの)、擦石、冠石等も多く発見されているが、この遺跡の特色として石錘(せきずい)が多数発見されている。これは石の重りを使い、海で魚を獲っていたもので、採取生活のなかで海とのかかわり合いを示す資料でもある。この館崎遺跡のほか、福島町では館古遺跡も同年代のものである。

今から 2500 年位前から 2000 年前の土器年代を縄文晩期の時代というが、福島町ではこの時代以降の土器は発見されていない。1900 年に福島村と白符(しらふ)村が合併し一級町村制により松前群福島村になる。1944 年に町制が施行され福島町へ。その後 1955 年に松前群吉岡村を編入し、現在の福島町が出来上がった。

2,地理と気候

2,1 位置

福島町は東は上磯郡知内町、西は松前郡松前町、北は桧山郡上ノ国町に接している。

北緯 41 度 28 分 52 秒、東経 140 度 15 分 18 秒 (現町役場位置測定) に位置している。

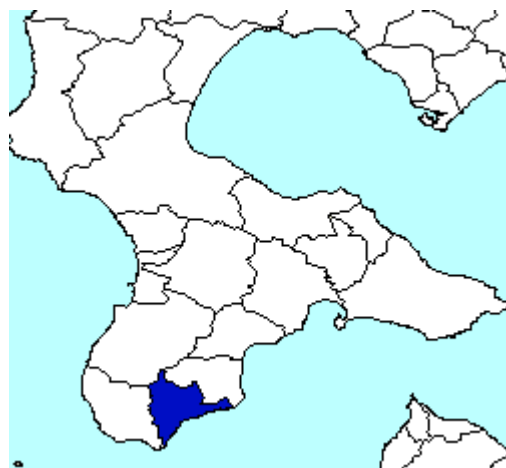
2,2 地勢

海岸の汀線は東の矢越岬から西の白神岬東側滝の澗までの間、およそ 30 キロメートルの海岸線が続き、美しい海岸美を形成し、松前・矢越道立自然公園として指定されている。

農耕地は僅かに福島川流域の沖積平野に展開するのみで、他のほとんどは山地で、砂金採取の場所であったことで有名な大千軒岳を盟主とし、前千軒岳、袴腰(はかまごし)岳、百軒岳、桧倉岳、岩部岳、七ツ岳、灯明岳等 700 ~ 1000 メートルの山々が連立し、その山容を誇っている。このように北は山岳地帯に囲まれ、南は海峡に面しているので、比較的雨量が多く、温暖な気候で平均気温は 11.3 度(平成 4 年度調査)であり、この地域のなかに、人口約 8000 人の町民の生活が展開している。

青函海底トンネルの完成によって、福島町の行政区域も拡大され、同トンネル延長の中心

図 1：福島町の位置

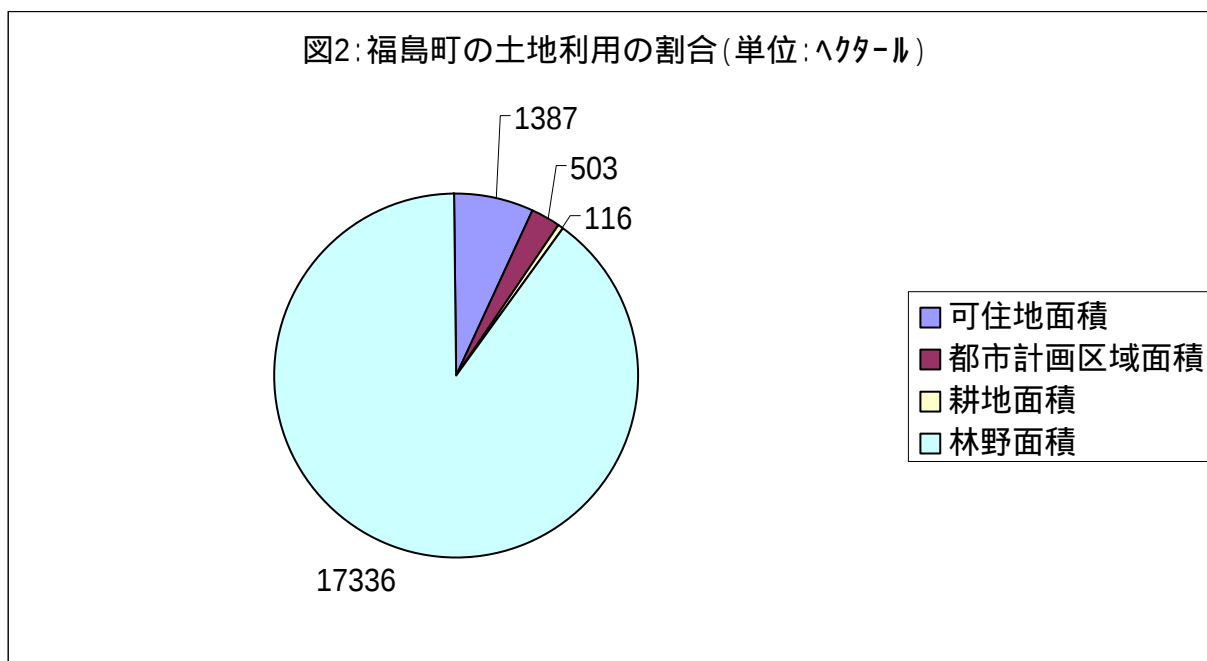


出典：ウィキペディア HP

部以北から福島町字館崎までの 12,3 キロメートル間が福島町の地先として認定されている。

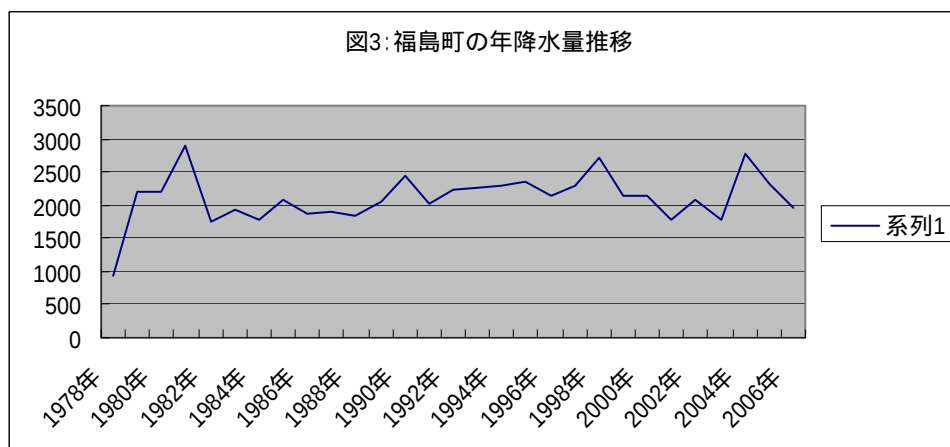
2,3 土地利用

利用面積は総土地面積 18723ha の内の僅かに 2006ha で、他の面積の多くは山林、山地である。



出典：わがマチわがムラ HP

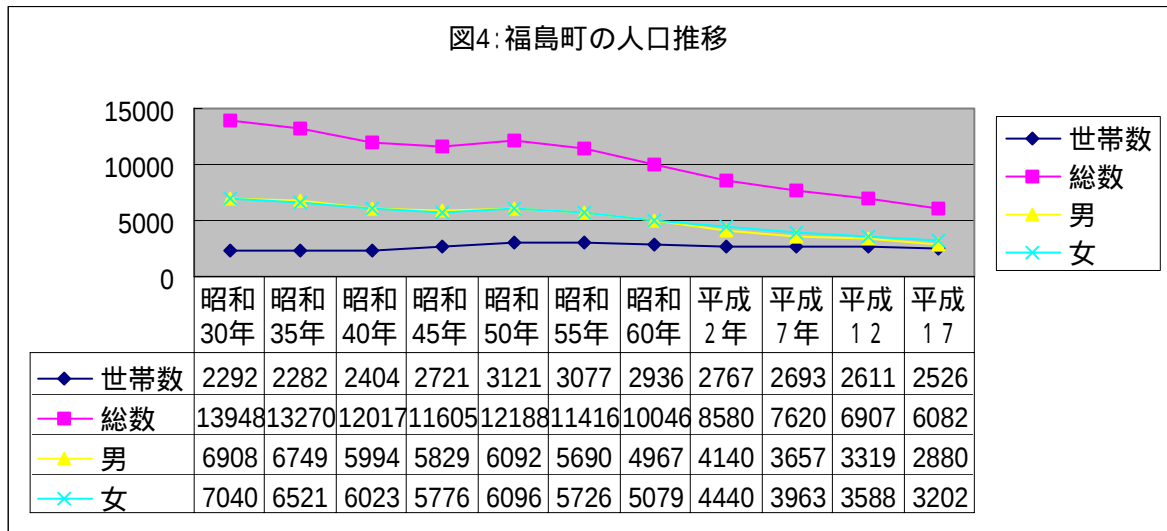
2,4 気候



出典：気象庁 HP

平均気温は道南で 1 番暖かく 11,3 である。(平成 4 年度)

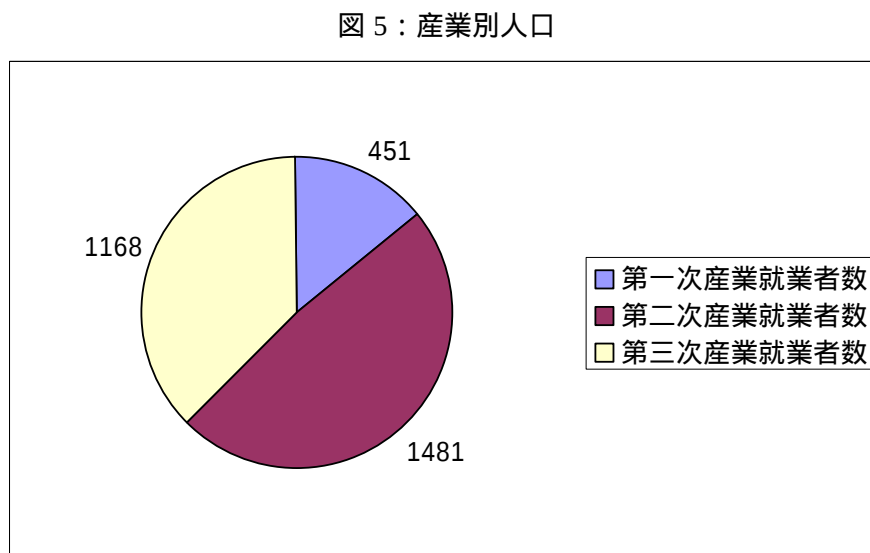
3,人口・世帯数推移



この図からは単なる人口の減少だけではないことがわかる。昭和 40 年から 50 年にかけて世帯数が約 700 世帯増加しているのに対し、人口がほとんど増加していない。これは核家族が増えたことが原因であると推測できる。また昭和 60 年以降は人口が減少している。これは、町の産業が漁業のみに頼っているのが若者が近隣の町へと移り住んだのではないかと思う。

4、産業

4,1 産業別人口



図からわかるように第二次産業就業者数が1番多く、全体の47%を占めている。次いで第三次産業就業者数が38%、第一次産業就業者数が15%を占めている。

4.2 農業

福島町は表1にあるように総面積のおよそ1%しか耕地面積がないことから、農業がそれほど盛んではないことがわかる。農家数は105戸で、そのうち80戸が自給的農家、残り25戸が販売農家である。私も函館市に住んでいたが福島町産の野菜は生しいたけくらいしか食べた記憶がない。農家数は農林水産省「2000年世界農林業センサス（農業編）」、耕地面積は農林水産省「平成16年（産）作物統計調査」で調べた結果である。

4.3 漁業

福島町は津軽海峡に面していることもあり、漁業が盛んな町である。中でもするめいかの漁獲量は日本でも屈指の水揚げ量で、そのするめいかから作られるスルメの生産は日本一である。

スルメが町のイメージキャラクターになっているほどである。

近年では漁獲量を安定させるためにひらめの養殖も盛んになってきている。漁業世帯数は255世帯で、そのうち217世帯が個人漁業経営体、残り38世帯が漁業従事者世帯である。

図6：イカ綱くん



5. 観光

5.1 横綱記念館

福島町は第41代横綱千代の山雅信、第58代横綱千代の富士貢と、横綱の誕生が日本一多い町である。それゆえ道の駅の名前も『横綱の里ふくしま』。ここでは横綱について学べるとともに、名産のスルメなどお土産を買う事もできる。入館料は小・中・高校生は250円、一般は500円である。他にもここには稽古土俵があり、一時間500円で借りられる。横綱千代の山・千代の富士記念館（0139-47-4527）

図7：横綱記念館



福島町役場 HP

5.2 青函トンネル記念館

図 8：青函トンネル記念館



福島町役場 HP

ここでは世紀の大工事と呼ばれた世界一長い海峡トンネルの工事の様子が、当時の工事基地模型や実際に使われた機材などにより再現され、当時の工事風景や工事に携わった人々をプロジェクターで紹介しています。また、海峡の歴史やトンネルと福島町との関わりについてのコーナーや、福島町に逃げてきた蝦夷キシリタンの歴史も学ぶことができます。

5.3 祭り

北海道女だけの相撲大会は毎年「母の日」に開催され、全道から力自慢の女性達が集まり、女の意地をかけてぶつかりあう大会である。16回目を迎える今年は、「第1回女だけの相撲大会写真コンテスト」も開催される。

横網の里フェスティバル”やるべ福島イカまつり”は福島町最大のイベントで、地元の名産「イカ」を使った活イカつかみどり大会やお相撲さんが参加する綱引き大会など、福島町ならではのユニークな催しがあるのに加えて、フィナーレには海峡花火大会もある。

図 10：横網の里フェスティバル”やるべ福島イカまつり”



福島町役場 HP

6, 参照ホームページ

福島町役場 HP：

<http://www.town.fukushima.hokkaido.jp/chiyohshi/mokuji/index.html>

北の道ナビ HP：

http://www.hokkaido-michinoeki.jp/i/42_index.html

ウィキペディア HP:

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A6%8F%E5%B3%B6%E7%94%BA>

福島商工会議所 HP:http://www.do-shokoren.com/kaido/jp_s/fukushima.htm

わがマチわがムラ HP: <http://www.toukei.maff.go.jp/shityoson/index.html>